令和6年度東条学園小中学校教育研究推進計画

1 学校教育目標

『 自ら学び、こころ豊かにたくましく生き抜く学園生の育成 』
～「9年間を見通した効果的なつながり」の実践～

2 研究主題

主体的に関わり学びあう学園生の育成
～9年間の学びのつながりを意識したまとまりある学校づくり～

3 主題設定の理由

本校は、全体的に素直で明るく、与えられた課題に対して何事にもまじめに取り組める児童、生徒が多い。一方で、自ら主体的に課題を見つけて行動することが苦手である。また、他者と関わることから個に返り、考えを深めるまでに至っていない。

このような児童、生徒を部分的でなく、継続的、計画的に育成するため、1～9年生が1つの学び舎で生活を始めていることを活かして、「9年間の学びのつながり」「ステージ制を活かしたつながり」という観点で、授業や日常生活の取り組みを見直し、改善を進めている。

今年度、「自ら学び、こころ豊かにたくましく生き抜く学園生」を育成するため、特に「他者と関わることで、考えを深める姿」を9年間を見通し、系統立てて学習面、生活面で教師が意図的に計画、実践する。そうして学園生が学びやすさを実感し、集団としてまとまりをもつことで、更に良い学びにつなげていきたい。

4 研究の方向性

(1) 教科指導における「学びのつながり」を研究、推進 ・・・ **「授業づくり部会」**

教科指導において、小中一貫校の利点を活かした「9年間の学びのつながり」を実践する授業づくりを研究、推進していく。そのために、校内授業研究、協議を計画的に実施していく。授業づくり部会を「文系部会」「理数系部会」「実技系部会」に分け、それぞれの部会において9年間の学びの中につながりを見出し、各授業における系統性を高めていく。その授業はどこからつながっているか、どこへつなげていくかを各部会協力して学びのつながりを確立し、学習をより系統立ったものに更新していく。今年度はこれまでの研究実践で得られた成果や課題を踏まえ、児童生徒が「他者と関わることで考えを深める姿」を実現することを目指す研究を進めていく。

(2) 行事や日常生活、地域における「学びのつながり」を研究、推進 ・・・ **「つながりづくり部会」**

行事や日常生活においても、小中一貫校の利点を生かした「9年間の学びのつながり」を実践する活動を研究、推進していく。生徒会活動における「行事」「日常生活」「地域とのつながり」における取組に重点を置いて研究を進めていく。「縦割り班活動」を活用した生徒会活動や行事における学年を超えたステージ内外での取り組み計画、清掃活動、ステージミーティングなどにおいて、上級生と下級生が日常的に関わる機会を作るなど、1年生から9年生までが同じ学び舎で生活している義務教育学校ならではの環境を生かした取り組みを確立していく。